

北大病院臨床遺伝子診療部は2016年から17年にかけて全10回の連載で「遺伝カウンセリングの最前線」という特集を寄稿させていただきました。今回、6年ぶりに本特集をアップデートする形で再び執筆の機会をいただきました。この6年の間にはたくさんの新たな遺伝学的検査やがんゲノム医療の保険収載があったり、着床前検査の進展や出生前検査についての厚生労働省の報告書に基づいた新たな仕組みが開始されたり大きな変化がありました。遺伝医療は既に日常診療に深く入り込んでおり、一次医療

北大病院臨床遺伝子診療部部长・教授

山田 崇弘

①北大病院臨床遺伝子診療部の紹介

施設と高次施設が連携する倫理指針（文部科学省・厚生労働省、経済産業省）、「遺伝的検査に適切に提供することに関するガイドライン」（遺伝学連10学会）に全11回にわたり、北大病院臨床遺伝子診療部の臨床遺伝専門医や認定遺伝カウンセラーが各領域の遺伝診療を解説させていただきますので、今後の充実した連携体制確立の一助となれば幸いです。

◆ 当診療部は、01年4月に施行された「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する



北大臨床遺伝子診療部の新体制。2022年11月から新部長・教授の山田崇弘が着任し、新体制が発足しました。北大内外と積極的に連携して遺伝医療を盛り上げてゆきたいと思っています。前列左から顧問・矢部一郎脳神経内科教授、部長・山田崇弘教授、副部長・松島理明脳神経内科診療講師、後列左から佐々木佑菜認定遺伝カウンセラー、柴田有花認定遺伝カウンセラー

な遺伝診療を担ってまいりました。また、当診療部では症例検討を行うミーティングを月2回行い、その場で遺伝カウンセリングを実施します。ゲノム関連の研究には、人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針により遺伝カウンセリング実施が可能な体制であることが必須条件となっています。今後さらなる体制の充実を図り、北海道における遺伝医療のモデルとなるよう努めていきたいと考えています。少しでも読者の皆様の遺伝医療についての理解が深まることを願っています。

ました。発足以来3代にわたり全員が主診療科と兼任で運営されてまいりましたが、このたび22床遺伝専門医制度研修の雇用が始まり安定的な養成にも貢献できるよ

うにいたしました。また、当診療部は各診療科で実施されるゲノム関連の自主臨床試験や医師主導治験を支援しています。ゲノム関連の研究には、人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針により遺伝カウンセリング実施が可能な体制であることが必須条件となっています。今後さらなる体制の充実を図り、北海道における遺伝医療のモデルとなるよう努めていきたいと考えています。少しでも読者の皆様の遺伝医療についての理解が深まることを願っています。